

平成30年 3月9日

平成29年度練馬区立谷原中学校 学校評価報告書

練馬区立谷原中学校
校長 中嶋雅彦

1 自己評価結果

(1)概要

本校では、「授業の充実と家庭学習の定着による確かな学力の向上」「心と健康な体の育成」「地域に開かれた学校づくりの推進」「小中一貫教育の推進・教職員の質の向上」を中期経営目標に定め、教育活動を進めている。

「確かな学力の向上」については、適正な授業時数や指導内容の実施を行うとともに、生徒の表現活動を重視した授業実践に努めている。具体的には、週時程の見直しや開校記念日・都民の日を授業日に変更して授業時数の確実な確保に努めている。また、生徒にとって分かりやすい授業を目指して3人組の研究グループによる研究授業を計画し、定期的に授業研究を行い、グループ内で教員相互が協議を行い、教員の授業力向上を目指している。

授業規律については、朝読書を実施し読書活動の充実を図るとともに、チャイム始業の徹底をはじめ、落ち着いた学習環境を整えることができている。しかし、家庭学習の定着については、保護者と協力して、今後も具体的方策を提示して積極的な働きかけと点検指導等を継続していく。

また、技術科や家庭科の実習授業の授業補助、放課後学習教室（地域未来塾）や長期休業中の自習教室への地域人材や学生ボランティアを活用した学習指導を行った。次年度以降も、継続して、支援が必要な生徒への学習指導を行っていく。

「心と健康な体の育成」については、あいさつのできる生徒の育成、健康の保持と体力の向上に加え、自他を認め大切にできる心情の育成に努めている。今年度もオリンピック・パラリンピック教育を推進し、ボランティアマインドの醸成に取り組んでいる。昨年までのスポーツを通じた健全育成の基盤の上に福祉や奉仕に関わる学習機会を設定している。

また、生徒会を中心にふれあい月間の取組として、異学年や特別支援学級とのレクリエーション等の活動を計画的に実施することができた。今後の課題として、生徒の自己肯定感を高め、自分を大切にするとともに他者を尊重できる意識と姿勢をさらに育む指導を深めていく。様々な社会経済背景をもつ生徒が在籍する中で個々の特質を踏まえ、支援が必要な生徒への学習、生活支援が今後の課題である。

「地域に開かれた学校づくりの推進」については、地域行事への参加や、職場訪問、職場体験の実施を通して地域との連携を深め、生徒が地域とふれあう機会を設けている。

また、広報活動としては、学校だよりの発行やホームページの更新を定期的に行い、学校の情報を保護者、地域に積極的な発信に努める。

「小中一貫教育の推進・教職員の質の向上」は、北原小学校、谷原小学校と児童・生徒、教員間の交流や互いの教育活動の理解、相互の行き来を通して連携を推進している。

教職員の研修については、服務事故防止研修会、生徒理解についての研修会等を実施し、教員の意識改革に努めている。現在は、若手教員が増加してきている過渡期であり、計画的に研修会を実施し、今後も教職員の資質の向上を図っていく。

(2)根拠となる資料

※学校評価アンケートの「あてはまる：4点、ややあてはまる：3点、あまりあてはまらない：2点、まったくあてはまらない：1点」として点数化した（4点満点）（ ）内は昨年度との比較

評価項目		保護者	生徒	教員
1	規律ある分かりやすい授業が行われている。	3.3(±0)	3.5(+0.1)	3.4(±0)
	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に落ち着いた雰囲気での授業が展開されている。 ・長期休業中の補充教室や放課後の補充教室は地域人材を活用して実施することができた。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修や区中研教科部会等の機会を活用し、教員の授業力の向上に努めていく。 ・長期休業中の補充教室や放課後の補習教室を計画的に設定し、学力の定着に努めていく。 			
2	家庭で毎日勉強する習慣が付くよう、課題を出すなど努めている。	3.0(+0.5)	3.2(+0.6)	3.4(+1.1)
	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習＝宿題という意識が根強く、保護者・生徒の認識を変えていく必要がある。 ・生徒の自主的な家庭学習の方法を説明し、定着させていく必要がある。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・宿題の量や質について検討するとともに、家庭学習の定着に向けた指導を深めていく。 ・家庭学習の在り方について保護者会等の機会を活用して説明していく。 			
3	いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	3.4(+0.1)	3.6(+0.1)	3.9(+0.3)
	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を活用し、生徒自らがいじめや暴力の未然防止に取り組む意識を高めさせることができた。 ・道徳の時間を中心に教育活動全般を通して、豊かな心の醸成に努めていく必要がある。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーや心のふれあい相談員等を活用し、教育相談の機会を充実させていく。 ・ふれあい月間だけでなく、日常の活動を通じていじめの早期発見・早期対応に努めていく。 			
4	子供は学校に通うことを楽しいと感じている。	3.5(±0)	3.4(-0.1)	3.7(+0.2)
	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒は充実した学校生活を送っているが、人間関係でトラブルを抱えている生徒はいるのが現状である。 ・学習環境や集団生活になじめず学校不適応になる生徒が増加傾向にあり、本校の課題となっている。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい授業を展開し、生徒に達成感や充実感を体験させる指導に努めていく。 ・学校行事や部活動の充実を図り、望ましい人間関係の構築に努めていく。 			
5	学校だより、学年だより、学校ホームページなどで学校の様子がよく伝えられている。	3.4(±0)	3.4(-0.1)	3.3(-0.1)
	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種たよりや学校ホームページで教育活動の様子を公開することができた。 ・学年行事の学校ホームページ公開は、担当者を明確にして組織的に対応が必要である。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・各種たよりの内容の充実を図り、保護者・地域へ教育活動を広めていく。 ・校内組織を見直し、学校ホームページの運営にあたっていく。 			
6	学校は「公開授業」「地域行事」を通して、地域との連携を大切にしている。	3.6(+0.1)	3.5(±0)	3.7(-0.1)
	自己評価についての評価結果および主な意見 <ul style="list-style-type: none"> ・授業公開の参観者は回を重ねるごとに減少傾向にあり、参観者の増員に課題がある。 ・伝統文化体験や講演会を通してPTAや父親の会、青少年育成委員会と連携することができた。 			

	自己評価を踏まえた次年度の改善策			
	<ul style="list-style-type: none"> ・第二土曜授業日や学校行事の機会を積極的に地域・保護者に公開していく。 ・地域行事に生徒・教員が参加するよう呼びかけ、連携を強化していく。 			
	学校は様々な取り組みを通して、小学校との連携や交流を深めている。	3.5(+0.1)	3.5(±0)	3.3(-0.1)
7	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育推進コーディネーターを中心に計画的に取り組むことができた。 ・生徒会や部活動体験等の機械を通して、実践的な児童・生徒の交流を深めることができた。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策			
	<ul style="list-style-type: none"> ・校区别協議会や連携事業を通して児童・生徒及び教員間の交流の機会を充実させていく。 ・課題改善カリキュラムを見直し、より実践的な交流活動を推進していく 			
	子供を安心して学校に通わせられる。	3.6(±0)	3.6(±0)	—
8	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒間のトラブルやからかい、悪ふざけはあったが、早期指導により解決させることができています。 ・服務研修や校内研修を通して生徒理解に努め、個に応じた指導にあたることができた。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策			
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談活動を充実させ、生徒・保護者の悩みや要望に答えられる体制を整えていく。 ・保護者の方に来校していただき、教育活動の様子を見ていただく機会を増やしていく。 			

2 学校関係者評価

(1)総括

学校関係者会議を開き、本校の学校経営計画、教育活動、自己評価の結果についての説明を行った。学校評議員やP T A役員の方か多種多様なご意見を伺うことができた。

①成果

- ・生徒・保護者ともに「安心して通わせられる」の評価が高かったのは、何よりも良いことである。
- ・授業規律も確立されており、落ち着いた学習環境が確保されていることは評価できる。その成果が学力調査の結果にも表れている。
- ・学校行事や部活動で生徒が活躍し成果を上げている。

②課題

- ・家庭学習の習慣が身に付いていないと感じている保護者・生徒が多い。授業を充実させるとともに、家庭学習の習慣を確実に身に付けさせる指導をしてほしい。
- ・長期休業中や放課後の補充教室は、ぜひこれからも続けてほしい。
- ・学校不適応生徒が増加傾向にあり心配である。
- ・部活動や生徒・保護者対応で先生方の負担が増していることが心配である。学校公開日の参加人数が回を追うごとに減少傾向にある中、日頃頑張っている先生方の取り組みを保護者にもっと伝えられる機会があると良いと思う。
- ・学校ホームページによる学校情報の発信は保護者の期待も大きく、楽しみにしている家庭も多い。これからも続けてもらいたい。

③改善策

- ・学習指導では規律のある授業を基盤として、教員が日々授業改善への努力を継続していく。
- ・家庭学習の習慣化に向けて、学校から生徒・保護者へ具体的な活動を提示して働きかけていく。
- ・長期休業中や放課後の補充教室は、生徒の参加や運営形態に反省点もあったので、より効果的な実施に向けて進路学習部を中心に検討していく。
- ・学校公開日の参加については、保護者が学校に来る階数や内容を見直すとともに、P T A活動や地域とのタイアップを工夫していく。

(2) 根拠となる資料

	項目	具体的な方策	自己評価に対する意見	学校関係者評価を踏まえた次年度の方策
1	確かな学力の向上	授業の充実 家庭学習の定着	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に授業規律は確立され、学力の定着につながっている。 補充教室の充実や家庭学習の定着に向けた指導を継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修を通じて教員の授業力の向上を図っていく。 地域連携事業の効果的な活用を検討、実践を行う。
2	健康な心と体の育成	あいさつのできる生徒の育成 自他を認め大切にできる心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> 来校者に対する生徒のあいさつが定着化してきた。 運動会等の行事では、生徒は主体的に活動していてとてもよい。 引き続き「思いやり」「ボランティア」の意識を培ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動の一環としてあいさつや言葉遣い、望ましい人間関係等、社会性を身に付けられる機会を設定していく。 道徳の時間や教育活動全般を通して「思いやり」や「ボランティア」の対する意識を醸成していく。
3	地域に関わられた学校づくり	保護者・地域との連携強化 信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> P T Aや父親の会、青少年育成委員会と協力して事業を実施している。 各種たより、学校ホームページを活用して学校情報を発信してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> P T Aや地域と協力した行事を計画し、連携を深めていく。 各種たよりや学校ホームページを組織的に運営し、教育活動の情報公開に努めていく。
4	小中一貫教育の推進 教職員の質の向上	小学校との連携の推進 生徒理解に基づく指導	<ul style="list-style-type: none"> 実践校として北原小、谷原小と連携することができている。 サービスの厳守は鉄則であり、生徒理解のための努力を徹底してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫研究グループ実践校として継続的に活動していくために、要項を整理する。 サービス事故防止の校内研修会を継続して実施し、教職員全体の資質や意識の向上を図っていく。

3 評価結果の公表等

評価結果は、次のように保護者・地域へ公表していく。

- (1) 平成29年12月 保護者・生徒・教職員による学校評価アンケートを実施する。
- (2) 平成30年 1月 学校評価アンケート集計・分析・まとめを行う。
- (3) 平成30年 2月 学校関係者評価委員会で集計結果・まとめを提示し、意見交換を行う。
学校だより、学校ホームページで保護者・地域に公表する。
- (4) 平成30年 3月以降 保護者会等の資料として活用していく。

4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

本校生徒の生活全般の様子は、落ち着いていると評価された。生徒会を中心とした行事の取組を一年間通して実施し、自主的活動の促進と生徒を思いやる心を育てるようにした。特別支援学級との交流活動を積極的に取り入れたことは、通常級の生徒、特別支援学級の生徒の双方にとって、一人一人には違いがあることを認め合い、互いのよさに気付かせることに効果的であった。反面、相手の気持ちを考えない言動や行動も見られた。未だ、他の人のことを思いやること、仲間への心遣いという面においては課題があり、今後も様々な体験を通して、周りの人の気持ちのわかる生徒に育てていかなければならない。

学力の向上については、基礎・基本の確実な定着を図るため、教育課程を見直し授業時間を確保し、授業規律とともに、主体的な学びを重視した学習活動を展開する。谷原未来塾を計画的に実施して、支援が必要な生徒への学習指導を計画的に実施していく。さらに、授業研究を校内研修計画に組み込み、授業力の向上を図る。

保護者・地域との連携については、P T A、父親の会等、多くの組織と連携を深め、協力を得ることができた。課題としては、運動会、文化発表会への来校者は多いが、学校公開日、道徳授業地区公開講座や父親の会の行事に参加する保護者は少ない。来年度は、保護者・地域と連携をとり、多くの保護者が参加できる取組を取り入れていきたい。